

れきしみち

P2…特集

2026.7
No.141

特別展

あこがれの 黒髪

結う 切る 守る

— 日本人と髪の世界史 —

P4…収蔵品紹介 稲の神様がもたらしたものの一岩槻信治への手紙—

P5…松平講演会まとめ

P6…館長と行く史跡さんぽ①～安祥城址公園内の史跡～

P7…展覧会関連イベント／松平講演会

P8…ナイトミュージアム／市民ギャラリーよりお知らせ

夜の博物館に行こう！ 「ナイトミュージアム」

8月28日(金)～8月30日(日)

8月28日(金)～8月30日(日)の3日間は安城市歴史博物館、安城市民ギャラリー、
安城市埋蔵文化財センターを夜8時30分(入館は夜8時)まで開館します！(※通常は夕方5時まで)
期間中は様々なイベント、アート企画、博物館ナイトツアーをおこないます。
ぜひ夜の博物館にお越しください！

さとのマルシェ
8/28(金)、29(土)、30(日)
16:00～20:30

飲食のキッチンカーや
雑貨やクラフトの店舗が出店。
[会場] 安祥城址公園

同時開催

8/29
(土)

8/30
(日)

灯籠の
まつり

日没～20:30 ※雨天時内容変更あり
[会場] 東尾八幡社、安祥城址公園 一角
主催：東尾灯籠と竹あかりの会

「あこがれの黒髪」夜間展示解説



特別展「あこがれの黒髪」の展示を
学芸員が解説します。

[開催日] 8月28日(金)
19:00～

[会場] 歴史博物館 企画展示室

[定員] 15名(先着順)

[参加費] 展示観覧料600円
(中学生以下無料)
当日18:50～受付

申込み

毎年人気の ドキドキ・わくわく 博物館ナイトツアー

夜の常設展示をめぐります。昼間とは違ったドキドキ感をお楽しみください。

[開催日] 8月29日(土)、8月30日(日)

①18:00～ ②18:30～
③19:00～ ④19:30～

[会場] 歴史博物館2F 常設展示室

[定員] 各10名(先着順)

[参加費] 1人200円(ミニ灯籠のお土産付き)
[対象] 3才以上(小学生以下保護者同伴)

申込み 8月9日(日)9:00～電話受付



L'eclat チアダンス



チアダンス、フラダンスのダンスステージを
お楽しみください。

[開催日] 8月28日(金) 18:00～19:45

①18:00～19:00 チアダンス②19:15～19:45 フラダンス

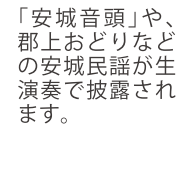
[会場] 安祥城址公園 ※雨天中止

[出演] L'eclat、ハーラウフラオカマハロアイ

ハーラウフラオカマハロアイ フラダンス



安城民謡で盆踊り



[開催日] 8月29日(土) 18:30～19:30

[会場] 安祥城址公園 ※雨天中止

[出演] 竹友会

和太鼓演奏&盆踊り

安祥公民館で活躍する2チー
ムが演奏。迫力あるステージ
をお楽しみください。

[開催日] 8月30日(日)
18:30～19:30

[会場] 安祥城址公園
※雨天中止

[出演] ①安祥太鼓②三州輪っ鼓
19:45～20:15 盆おどりタイム
(協力：三州輪っ鼓、安祥太鼓)



当日受付 スタンドグラス風 オーナメントを作ろう

[開催日] 8月28日(金)
①17:30～ ②18:30～
③19:30～

[会場] 市民ギャラリー 創作実習室

[定員] 各8組(1組2人程度まで)

[参加費] 1個200円

[対象] 3才以上(小学校3年生以下保護者同伴)

申込み 当日17:00～整理券配布



さがせ！マイブンクリーチャーズ

今年、クエストはちょっとお休みです。だけど、
マイブンのまものたちがあちこちに逃げ出し
て大さわぎ！？さがしだしてつかまえて！
ぜんぶつかまえたなら、ささやかな景品をプレゼ
ント。みんなの参加を待ってるよ！

[開催日] 8月28日(金)・29日(土)
18:00～19:30受付

[会場] 安祥城址公園ほか

[参加費] 1キット/150円

申込み 当日受付



土器ドキ晩ゴハン

火きり杵と臼で火おこし、復元弥生土器で
ご飯を炊きあげます。豚汁も配布します。

[開催日] 8月30日(日) 17:30～19:30

[会場] 歴史博物館前 ピロティ

[定員] 家族かグループ12組
(1組5名まで/抽選)

[参加費] 1人200円



申込締切 8/13(木)まで
申込フォームより
お申し込みください



申し込みはコチラ

※定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合がありますので、
最新情報はHPにてご確認ください。

お問合せ／お申込み 安城市歴史博物館 TEL:0566-77-6655

安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー企画展

酒井敦美 ヒカリの降るさと ～光の切り絵展2026～



[会期] 令和8年8月5日(水)～9月6日(日)

[時間] 8月5日(水)～8月27日(木)

9月1日(火)～9月6日(日)

9:00～17:00(入館/16:30まで)

8月28日(金)～8月30日(日)

9:00～20:30 ※開館延長(入館/20:00まで)

[会場] 市民ギャラリー展示室C・D・E

[主催] 安祥文化のさと地域運営共同体

[後援] 安城市教育委員会

[観覧料] 一般700円 ※小中学生100円(未就学児無料)

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の
居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

[全館共通事項]

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30 番地

休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00～17:00

TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00～17:00

TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00～17:00

TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00～21:00

TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館

URL / <https://ansyobunka.jp/>



あこがれの黒髪

結う 切る 守る

－日本人と髪の実史－

令和8年 7.25日→9.13日

【休館日】毎週月曜日
【開館時間】9:00～17:00 (入館は16:30まで)
【観覧料】600円
※中学生以下無料
※団体(20名様以上:480円)



牡丹菊模様透かし彫象牙洋髪簪
(ポーラ文化研究所蔵)

洋髪簪
(ポーラ文化研究所蔵)

豊かな黒髪は女の命などとも言われますが、女性だけでなく男性にとっても、古代から現在に至るまで美しい髪を維持することは大事なことでした。また呪術的な意味合いや、美しい見た目にするために髪型を工夫したり、髪飾りなどで装飾を行いました。

今回の特別展では、ポーラ文化研究所の髪にまつわるコレクションや、ホーユーヘアカラーミュージアムの白髪染めについてのコレクションと本館蔵の資料から、日本人と髪の実史について紹介していきます。

第1章 髪を結うー男女の髪型の変遷ー

武士が台頭し、戦が頻繁に起こる戦国時代には武士は兜をかぶるために額から後頭部にかけて剃る「月代」が常態化しました。同時期に、女性も髪を結いあげるようになり、この後、江戸時代に入り、結髪文化が花開きました。結髪は、髪を頭上に束ねて結った「髷」、顔の両サイドの「髻」「前髪」、襟足に近い「髷」の四つのパーツをアレンジして様々な髪型を作りました。江戸時代初期にはその後の基本となる「兵庫髷」「勝山髷」「島田髷」「弁髷」の四つの髪型が出来上がりました。江戸時代は、髪型や装飾品の種類から、身分や職業、年齢だけでなく既婚・未婚などの違いもわか



高島田(複製)
(ポーラ文化研究所蔵)

りました。

江戸時代中期には男性の月代の剃り上げや髷を結うための髪結床が登場しました。髪結床は噂話や情報交換の場としても機能していました。その後、安永年間(二七七二～八二)頃

第2章 髪を飾る

髪を飾る装身具としては、櫛・簪・簪が知られています。櫛は、髪を梳く、解かす、飾る、留めるなどの用途

があります。櫛の歴史は古く、縄文時代の遺跡からも出土しており、安城市内の亀塚遺跡からも弥生時代末から古墳時代初頭のほぼ完形の堅櫛が出土しています。この櫛は板材から櫛歯を削りだしており、髪を梳くのではなく髪を留める「挿櫛」と考えられています。



亀塚遺跡出土堅櫛
(愛知県埋蔵文化財調査センター蔵)

簪や簪など女性の髪を飾る装身具も結髪文化が花開いた江戸時代以降、急速に発展してきます。髪を結いあげるようになった江戸時代前期には飾り櫛が始めます。島田髷の流行に伴い、江戸時代中期になると一般の女性にも飾り櫛が広まりました。飾り櫛の素材として最も女性が憧れたのは鼈甲(かめこう)でした。江戸時代後期には木地蒔絵や象牙、ガラス、真鍮、銀など様々な素材に技巧を凝らした櫛も作られました。



松竹梅珊瑚飾りびらびら簪
(ポーラ文化研究所蔵)

江戸時代後期になると、歌麿などの浮世絵の遊女は、横兵庫を結い一〇本以上の簪を

第3章 髪をいたわるーヘアケアの歴史ー

古代から美しい髪を維持するために人々は心を砕きました。髪の実を出し、汗や皮脂を取り去るためには洗髪が非常に重要でした。油で固めた結髪は、まず櫛で髪を解き、海藻の布海苔を溶かした熱いお湯にうどん粉を入れたものを髪につけて洗いました。何度もお湯を換えて洗い、洗い終えたら髪を乾燥させ、また結うという手順で、洗髪は一日仕事でした。そのため、江戸時代では女性の洗髪の実度は月に一～二回でした。大正期になると清潔志向が高まり、通常は二週間に一回、夏季には回数を増やしました。



都風俗化粧伝 中 嘉永4年(1851)(本館蔵)

洗髪だけでなく、髪型を維持し、身だしなみを整えるためには整髪料も欠かせませんでした。江戸時代の整髪料としては、蠟に松脂や香油を加えた髪付け油や椿油などの水油が用いられました。



元禄看板(ホーユーヘアカラーミュージアム蔵)

明治期以降、女性の洋髪が次第に増えてくると洋髪用の櫛も登場します。また、新しい素材としてセルロイド製などの髪飾りが安価で大量に製造され普及しました。このように髪飾りは変化していく髪型に合わせて、素材・技法ともに目まぐるしく流行が移り変わりました。

明治期以降、女性の洋髪が次第に増えてくると洋髪用の櫛も登場します。また、新しい素材としてセルロイド製などの髪飾りが安価で大量に製造され普及しました。このように髪飾りは変化していく髪型に合わせて、素材・技法ともに目まぐるしく流行が移り変わりました。

会期中開催される関連イベントなど、夏休みに親子で楽しめる内容になっています。ご家族でぜひお越しください。

(文責:野上真由美)

現在、当館では令和四年(二〇二二)に閉館した愛知県農業総合試験場岩槻記念館(市内池浦町)の資料を整理しています。稲の人工交配の技術を得た岩槻信治は、当時の愛知県農事試験場において品種改良による米の増産に寄与したことから「稲の神様」と呼ばれるようになりました。記念館の資料は、これまでも『愛知県史』や『新編安城市史』編さん事業等により調査されてきましたが、今回の整理により信治に届いた四〇〇〇通以上の手紙が残されていることがわかりました。まだ整理の途中ですが一部を紹介します。

手紙は主に昭和初期から亡くなる前年の昭和十二年(一九四七)までのものでした。これらは沖縄県を除くすべての都道府県と朝鮮や台湾、軍事郵便では中国や南方から届いたものです。送り主は地方の農家や農学会、農事試験場の職員や農業学校、農業関係の出版社等でした。



資料受入時の手紙の状態

手紙の内容で多いのは、信治が試験場で人工交配した米の種籾を分けてほしいという分譲依頼や、その礼状などでした。この背景には、昭和十二年の日中戦争から戦後にかけて行われた、国による食糧増産計画が

ありました。当時の米の収穫量は米の種類だけでなく、作る場所の土地柄や気候、病害等により大きな差異がありました。国や地方の農事試験場では、その土地に適した米の品種改良を行っていました。農家は一粒でも多く生産したいと奮闘しますが、戦争のため輸入に頼っていた石油や肥料が入らなくなり、動力の必要な農機具や化学肥料は使えませんでした。また、害虫駆除の誘蛾灯も空襲に備えて使用できないこともありました。信治は新種を完成させると新聞や雑誌、講座や講演会で少量の種籾を分譲すると発表していたのです。昭和十七年に発表した新種の「昭南」は病気に強いとされ、飛びつくように依頼の手紙が全国から試験場に届きました。また昭和十九年九月に現在の岡崎市美合町にあった追進農場で、全国から農業を担う若い女性を対象とした農村中堅女子の中央訓練が行われました。その際、信治が種籾を分譲すると講義で話したことで、兵庫・岡山・徳島・愛媛・高知・広島県等の一八人の女性から依頼が届きました。このような新種の分譲は試作して成績を報告するという条件もあり、報告の手紙も残されていました。

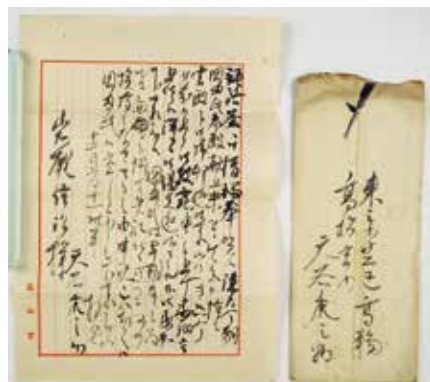
その他にも稲や麦に関しての著作や農業雑誌に数多く投稿していた信治の許には、信治著作の本や試験場発行の本・雑誌が手に入らず、直接購入を依頼する手紙が多くありました。戦後、復員兵が初めて農業をするにあたり購読したいというものも複数みられました。また農業の指導や講演会を依頼したいという学校や自治体、農学会からの手紙も多くありました。高知県安芸郡奈半利町から

は熱心に信治の来訪を求める手紙が届き、昭和二十一年二月の信治の訪問に対して土佐の交通王と呼ばれ農場を経営する野村茂久馬からの礼状が届いていました。

また高輪(東京都港区)の高松宮家の嘱託職員天谷虎之助あまがいのすけからの手紙もありました。昭和十八年から戦後にかけて信治は高松宮家へ甘藷の苗や新米等を献上しています。信治みずから届けることもあり、その礼状や甘藷の報告の手紙でした。高松宮宣仁親王のふひとは昭和四年と昭和二十二年に安城の農業を視察しています。

当時、農事試験場は愛知県だけではなくにも関わらず、信治あての手紙が多く残されているのは、信治が試験場での稲や麦の研究成果を積極的に本や雑誌に執筆していたこと、県内外の講演や講座に応じていたこと、何より農家に種籾を快く分譲していたことなどによるものと思われます。他にも信治の教えを求めて試験場を訪ねた際の礼状も多くありました。

日本デンマークと呼ばれなくなった戦争前後の安城において、試験場での信治の活躍は、彼が品種改良した米(種籾)と共に、全国的に注目されていたことがうかがえます。



高松宮家嘱託職員の天谷虎之助からの手紙

第1回松平講演会

安城の松平庶家

令和7年7月5日(土)
会場…歴史博物館 講座室



安城市歴史博物館では、平成二十一年度(二〇一九)から概ね年一回、松平シンポジウムを開催してきました。この中で安城市とゆかりのある安城松平家や徳川家康について、天正十八年(一五九〇)の家康関東移封までの三河の動向や、織田信長、豊臣秀吉との関わりについて研究者の方々によって議論が深められました。松平シンポジウムは令和六年度(二〇二四)第一回「家康は国替なさるべきにおひては関東に替へ給へ」家康三河最後の一年」として所期の目標であった家康の関東移封までの諸課題を取り上げましたので、一旦その役割を終えました。そして令和七年度からは、安城松平家や松平庶家について細かい視点にしほり、松平講演会を開催するはこびとなりました。

第一回目の講師として、松平氏研究の第一人者である平野明夫氏(國學院大学講師)に「安城の松平



庶家」というタイトルで、令和七年七月五日に桜井松平家、藤井松平家、福釜松平家など安城松平家以外の松平庶家についてご講演をいただきました。リモート聴講含め一二四人の方に参加いただきました。

平野氏は、『愛知県史』や『新編安城市史』に掲載されている古文書を元に、安城の松平庶家の動きや一族内での立場について解説しました。

桜井松平家は、初代親房に子がなく、安城松平二代長忠の子、信定が跡を継いだとされていますが「寛永諸家系図伝」に信定は桜井を号すとあり、桜井松平家の初代は信定であるとも読み取れるとされました。また、信定は大永三〇六年(一五二三)二六(頃)作成されたと考えられている「松平一門・家臣奉加帳写」では安城松平三代信忠の兄弟の中で最高額を奉加しており、信忠の後継者の筆頭であると考えられ、安城松平四代清康と安城松平家の当主の座を争ったとされています。信定については、尾張の織田家と姻族になっていることや、連歌師の宗長の日記「宗長手記」には大永六年に守山(名古屋守山区)の信定の館で宗長が連歌興行を行ったことが記されていることから、館は守山にあり、桜井に居たという記録はないと指摘しました。

藤井松平家についても、初代とされる利長の史料はみられるものの、利長が大樹寺に藤井甚九郎という人物の追福のために田地を寄進している史料もみられ、藤井甚九郎という人物は利長の親族であり、利長が初代という通説についても確定ができないという見解を示しました。藤井松平家についても史料上安城にいたことは明らかではないという見解を示されました。

安城とゆかりのある松平姓の人物として、史料からは左馬助長家という名前がみられます。長家は、家康の祖父で安城松平四代の清康が山中城(岡崎市)に移った後、安城城主となっていたとされています。大樹寺過去帳では、天文九年(一五四〇)に討死したという記録が残っています。長家以外にも同日に八人が討死したとされ、尾張の織田信秀の安城城攻めによって命を落としたことが推測されるとしました。

講演後は質疑応答も行われ、最後に、会場で参加していた村岡幹生氏(中京大学名誉教授から、桜井松平家の信定については菩提寺(市内桜井町)の建立が桜井松平家とされることから、守山と安城の二拠点で活動しており、信定が安城市域にいなかったとは言えないのではないかとの指摘がなされました。



(文責・野上真由美)



安祥城址公園内の史跡

新シリーズ「史跡さんぽ」が始まります。歴史博物館を起点にし、郷土の史跡を巡ります。先人が残した史跡を目で確かめてみましょう。

今回は安祥城址の本丸跡、二の丸跡、三の丸跡、その周辺の史跡さんぽです。



大乘寺山門前の右手には「安祥城址」の石碑があり、本堂には安城松平四代の位牌が安置されています。

安城城が築かれた時期や城主は明らかではありません。文献上では、文明年間（四六九～四八七）に岩津を本拠地としていた松平信光が安城城を攻め取ったという「三河物語」等の記録があります。松平氏の勢力下に組み入れられた安城城は、信光の三男である親忠が初代城主となり、以後安城松平四代（親忠・長忠・信忠・清康）の居城となりました。「安祥城」と表記されるようになったのは、江戸時代になつてからのことです。現在、本丸跡は大乘寺、二の丸跡は東尾八幡社になっています。

まず、①「本丸跡の大乘寺」を訪れます。大乘寺は浄土宗の寺で、山号は安祥山、院号は了雲院です。御朱印を本堂でいただくことができます。

本堂を南に向かって歩いていくと左手にこんもりし



大乘寺にある安祥城址の石碑



②より隅櫓跡(南)を望む



⑥笮の塔から安祥城址を望む



③東尾八幡社(二の丸跡)

最後に、⑤「三の丸跡」を訪れます。大乘寺本堂の裏手あたりに、三の丸跡だったようです。歴史博物館側から見ると、入口手前に大きな桜の木があり、春になると花見スポットになり、多くの人が訪れる場所です。

安祥城址公園のランドマークである⑥「笮の塔」の上からの風景も素敵です。ぜひ訪れてみてください。

文責…錦見和彦（安城市歴史博物館館長）

特別展

あこがれの黒髪

結う 切る 守る - 日本人と髪 の 歴史 -

日本の髪型の歴史

【日時】7月25日(土)14:00～
【講師】富澤洋子氏(ポーラ文化研究所学芸員)
【定員】60名



特別記念講演会

申込期間

6月5日(金)～7月4日(土)
往復はがきでの申込は、7月9日(木)必着

あいち電子申請システム・
往復はがきにて受付(抽選)

※往復はがきの場合は、イベント名、氏名、郵便番号、住所、電話番号を明記し、往復はがきにて安城市歴史博物館まで郵送。
※はがき1枚につき、1名申込となります。

関連イベント

あこがれの黒髪 当日受付

【日時】8月22日(土)14:00～
【講師】野上真由美(本館学芸員)
【定員】60名(当日先着順)

歴博講座

つまみ細工で髪飾りをつくろう!

【日時】8月1日(土) ①9:00～10:00 ②11:00～12:00
【講師】花川寛子氏(つまみ細工普及協会認定講師)
【定員】各回10名(事前申込み先着順)
【参加費】300円



水引結びで髪飾りをつくろう!

【日時】8月11日(火・祝)
【対象】【こども向け】10:00～11:30【おとな向け】13:00～15:30
【講師】坂口沙夜氏(～綺～mizuhiki)
【定員】各回12名(事前申込み先着順)
【対象】【こども向け】小学生以上(小学校3年生以下は保護者同伴)【おとな向け】高校生以上
【参加費】【こども向け】800円【おとな向け】1,500円



まだ間に合う自由研究「ヘアカラーでストラップを作ろう」

【日時】8月23日(日) ①10:30～12:00 ②15:00～16:30
【講師】梶原秀一氏(ホーユーヘアカラーミュージアム館長)
【定員】各回20名(事前申込み先着順)
【参加費】500円

見て楽しむ!日本髪結髪ライブ

【日時】9月5日(土) 14:00～15:00
【企画・監修】谷村真規氏(B.A.S.K HAIR)
【定員】30名(事前申込み先着順)
【内容】実演2点、展示作品5点

結髪作品の解説
15:15～15:45 当日受付

木櫛に和柄のデコレーションをしよう

【時間】9:00～16:30【参加費】200円/1キット
あこがれの黒髪クイズ
【時間】9:00～15:30【参加費】200円/1キット ※別途観覧料必要(中学生以下観覧無料)

開催期間
7月25日(土)
▼
9月13日(日)

令和8年
9月26日(土)14時～
【会場】(開場13時30分～)
安城市歴史博物館 講座室

定員 80名 ※定員を超えた場合リモート会場で50名

講師 西島太郎氏(追手門学院大学教授)

参加費 200円

申込み 9月5日(土)までにあいち電子申請システム又は往復はがきで申込。往復はがきの場合は氏名・郵便番号・住所・電話番号、直接聴講の抽選に漏れた場合のリモート会場での聴講希望を明記し、歴史博物館(〒446-0026安城町城堀30)へ。定員を超えた場合は抽選。抽選結果の発表は9月10日(木)。はがき1枚につき1人の申込。

あいち電子申請システムからのお申し込みはこちらから
申込期間 8月5日(水)～9月5日(土)23:59まで



西島太郎氏

1970年滋賀県生まれ。愛知大学文学部卒業。
名古屋大学大学院文学研究科博士課程(後期課程)修了。
博士(歴史学)。
松江歴史館学芸係主幹(学芸員)などを経て、
現在、追手門学院大学教授。

著書 『松江藩の基礎的研究 続』(岩田書院、2025年)
『室町幕府將軍直臣と格式』(八木書店、2024年)など

編著 『シリーズ・中世西国武士の研究 第7巻 佐々木京極氏』(戎光祥出版、2024年)など

※お客様よりいただいた個人情報は、本事業のご案内のみに活用させていただきます。